

友愛

題字：鳩山威一郎

機関紙「友愛」

発行所

(財)日本友愛青年協会

〒112-0002

東京都文京区小石川

1-10-13 松本ビル2階

TEL:03-5684-3188

FAX:03-5684-3186

発行人：川手正一郎

編集人：鶴巻 克雄

隔月1回 10日発行

購読料

年額 3,000円

鳩山一郎・薫ご夫妻銅像遷座式挙行

日ソ共同宣言議定書調印五〇周年を機に軽井沢友愛山荘へ移転

大本山護国寺岡本永司貫首他一山職衆により荘厳に執り行われる

八月四日(金) 東京都文京区護国寺にて、鳩山一郎・薫ご夫妻の銅像を移転するための遷座式が執り行われた。

この銅像は、鳩山一郎先生が総理大臣に就任した折、文京区から総理大臣が輩出されたことを祝って、一郎先生の後援会を中心に秋本平十郎氏、浦部武夫氏、井上卓一氏、利根川正次氏、奥村孝三郎氏等が発起人となり前護国寺貫首岡本教海氏のご協力を得て建立されたものである。

遷座式には、鳩山安子名誉会長を始め、井上和子氏(本協会副理事長)、石橋義夫氏(共立女子学園理事長、川手正一郎氏(本協会常務理事)、など関係各位が多数参加、各人がもつ万感の思いを胸に、お二人の銅像を見上げていた。

式はまず、大本山護国寺岡本永司貫首ほか一山職衆により四智梵語(しちほんご)の経が唱えられた。これは大日如来を讃え、太平、平安を祈り、唱えられる経で、銅像のこれからと、関係各位の平穩を願うての経となる。次に護国寺の本尊である如意輪観音を讃える観音経が唱えられ、荘厳の中に、穏やかな安らぎの漂う遷座式となった。

読経の後、鳩山安子名誉会長は挨拶に立ち、「文京の地を離れることには一抹の寂しさも覚えますが、父と母が愛着をもつて過ごした軽井沢の地、現友愛山荘に親音経が唱えられ、荘厳の中に、穏やかな安らぎの漂う遷座式となった。

ここに銅像の銘板に刻まれた記述をご紹介します。建立された方々のご努力と、一郎先生の偉業に敬意を表したい。(銘板の記述には旧字体が使われているが、ここではそれ等を新字体で表記した。また、句読点は施されていないが、読みやすい様子を施している。他は原文まま掲載)

銘板の記述：
鳩山一郎先生明治十六年
東京都に生る 明治四十年
東京帝国大学英法科を卒し
直ちに弁護士となり先代和

威厳の中にも優しい眼差しの一郎先生と、凛として美しい薫先生のお二人の姿

ステッキを手に、威風堂々の一郎先生と、寄り添う様に微笑んでおられる薫先生の銅像

鳩山安子名誉会長、井上和子副理事長が揃って献花された

永年一郎先生の秘書を務めた石橋義夫氏は、万感の思いを胸に献花

夫先生の法律事務所に入る明治四十五年二十九歳の時父君の逝去による補欠選挙に出馬して東京市議員に当選 以来大正末期まで十五年間を地方自治に尽くしその間副議長議長となる同時に大正四年衆議院議員に初当選爾来国会議員に職三十有七年当選十五回を数えた この間内閣総理大臣となり三次にわたる内閣を組織して国勢を担当した先生

の政治生活はそのままた我が国の政治史であり政治史であるがせんせいは戦前戦後を通じて一貫して民主主義と自由主義をもつて国勢の大本とする信念のもとに議會政治の確立擁護のために奮闘した 殊に終戦後いち早く政治政治再建に奔走し昭和二十年十一月同志とともに日本自由党を結成 その初代総裁となる 昭和二十一年四月の総選挙では一躍第一党となりまさに組閣の大命を受けようとする寸前連合軍の公職追放指令を受けた 爾来五年余を晴耕雨読に送ったが特にクーデレンホフカレルギーの著書に共鳴自ら「自由と人生」と題して訳出した また青年有志に友愛精神を説き同志会の創設に力をそそいだ 昭和二十六年六月病に倒れ同年八月病床中に追放解除される 翌二十七年再び政界に復帰した 昭和二十九年十一月民主党が誕生その総裁となる同年十二月吉田内閣総辞職のあとを受け第一次鳩山内閣を組織総裁選挙の結果民主党は第一党となり第二次鳩山内閣を樹立した三十年十一月自由民主両党の合同を達成第三次鳩山内閣を組織し翌三十一年四月初代自由民主党総裁に選ばれた同年十月ソビエト社会主義共和国連邦との国交正常化を目的として交渉のための全権として病身をおしてモスクワに赴き復興の大業を遂げた同年十二月十八日わが国の国連加盟が承認されこれを見届けて同年二十三日掛冠した 内には保守の大合同を完成して議會

「日ソ共同宣言議定書調印五〇周年記念事業」の一環として「友愛訪口団結成」が企画されていたが、このほどその日程と参加者が決した。この訪口団は、上記の記事にもある通り、鳩山一郎先生が病身をおしてモスクワにわたり、日ソの国交回復に尽力された事を讃え、議定書調印がなされた十月十九日にモスクワを訪れ、今後の両国の友好に役立てたいとの目的から結成されたものである。

機を同じくしてロシア側も「一郎先生の偉業に敬意を表し、「日口フォーラム」を開催することとなった。訪口団はこの式典に参加、今後の日口友好の絆を深めるといふ目的を果す。

また、ロシアの著名な作家により作成された「鳩山一郎先生の銅像」が鳩山山会館に寄贈されることが決まっております。その贈呈式にも山会館館長他関係者共に参加する。訪口団は、面接論文で選出された十六名の大学生が参加。今後を担う若人に、一郎先生が目指し

友愛時評

▼今年の夏は「極暑」と呼ぶにふさわしい暑さであった。毎年こういう言葉を繰り返して言うが、夏の暑さには特にこの繰り返しの増幅が多いように思う。

▼冬は、暖房や厚着などである程度防ぐことができるが、夏はクーラーの他これといったものがない。▼聞けば、クーラーの電力消費はかなりの量を占め、冬の消費量を越える日も多く、最近は何日もあると言う。▼しかし暑さもエネルギーだから「貯蔵」する有効な方法があればいいが、今のところ難しいらしい。コストで上まわる原子力発電を併用するようになったのは、消費を賄う意味が大きいですが、ほかにも風力や二酸化炭素転変などの発電方法もある。▼何時でも、どこでも暮らしたに必要な仕組みを作らなければならない。▼そう改めると感心する。▼そういった仕組みを改良しながら作り上げてきたプロセスは、歴史を見ればある程度わかる。そういうこともあって最近歴史の本ばかり買っている。▼考えてみると歴史というものは、当然のことだが、対象が広くて時間が長い。▼この世のあらゆることが対象になる。いくつになっても、初めてわかることが次から次に出てくる。面白くて仕方がないので「退屈」な人は是非すすめて。▼人前で薦めると勿論プライドを傷つけるので本欄を利用していただくが果たして効果があるかどうか。

日ソ共同宣言議定書調印五〇周年記念事業

訪口団結成さる！ 学生16名参加

鳩山山会館にロシアより銅像が贈られる

た友好、友愛の思いを体験する機会を与える。

昭和三十一年当時、鳩山一郎総理に随行し、全てを見聞してきた石橋義夫氏(共立女子学園理事長)は次のように訪口団への饒の言葉をくださった。

「今と違い西からの往路、東からの復路で、世界を一周する長旅。病身の一郎先生はどれほどご負担だったか。最後の経由地ハワイで先生が「生きて帰れるな」と呟かれたことがそれを物語っている。文字通り命懸けでなされた事だ。先生への思いを是非若い人達に感じて欲しい」

訪口団は十月十六日に日本を立ち去る。二十一日に帰国。

参加者 順不同・敬称略

＊鳩山山会館館長 川手正一郎、武田記念男、大竹範小川巧次、田中公男 ＊友愛訪口団 団長 鶴巻克雄、井上尹、卯月研造、吉田允彦、宮古正三郎、原雄一郎、高杉信美、佐々木恵美子、大久保昭夫、渡辺正数、萩原直三、福田八州雄、櫻井淳一 ＊他学生十六名計三十五名で結成される。

インドネシア教育グループ来日

文部科学省・塾・科学未来館・合宿セミナー 多彩なスケジュールで日本を堪能

独立行政法人国際協力機構(JICA)が行う青年招へい事業により、インドネシア教育初中等グループ十二名が七月十日(月)に大阪に到着。四日間の共通プログラム(日本の学習)の後、十一日から十七日まで、の七日間、鳥取においてホームステイを含む「地方プログラム」を実施。次いで十八日から二十五日まで、財団法人日本友愛青年協会が受入れを担当した「都内プログラム」に入った。

都内プログラムでは、文部科学省を始め日本科学未来館など関連施設を視察。各種講義を受講し、日本文化体験など多彩なプログラムを行った。二十一日から軽井沢友愛山荘で開催した二泊三日の合宿セミナーでは、意見交換や交流会など充実した三日間を日本青年と過ごした。連日の猛暑にもかかわらず、インドネシアの青年たちは精力的にプログラムをこなし、二十七日、多くの成果と友情の思い出を胸に帰国の途についた。

今回来日したのはインドネシアの教育分野に関わる青年(教諭など含む)二十二名のグループで、本協会としては、三度目教育関係者の受入れとなった。

二十三日間にあふ日本滞在中、「財団法人日本友愛

青年協会」(都内プログラムを担当)と「とっとり青年会」(地方プログラムを担当)がそれぞれ八日間の受入れを行った。プログラムは過去の受け入れ経験を活かし、好評だった企画のほか、新たに防災センターなど、両国の共通の問題点などを話し合える情報提供に腐心した。同時に「日本の教育」を主題に、文部科学省訪問、教科書作りの現場を訪問など、本協会ならではの企画を実施できたことがあげられる。

受け入れ事業を実施するに伴い、講師の方々や訪問先企業、日本青年など、多くの方々の協力を始め、友愛関係各位に協力をいただき、無事プログラムを終えることが出来ました。この場を借りて厚くお礼申し上げます。

文部科学省訪問

「日本の教育の現状」について、文部科学省寺脇研大臣官房広報調整官より直接お話を伺う。日本の教育制度、教育方針についてなど、来日青年たちが一番興味をもっていたこと、知り

たかったことの解説に質問も多くあった。基礎知識としての十分な講義となった。茶道体験
世田谷区にある茶席・会席料亭一宮庵にて茶道を体験。並べられた茶道具にも、お点前の作法にも興味津々でのぞき込んでいた姿が見られた。また初めての「お薄(抹茶)」に感想は様々。

互いの顔をのぞき込み苦笑いする青年や、これは好きだと感想を述べる青年など、茶道体験にわいた。震度7の揺れにビックリ！
東京池袋の「東京消防庁

池袋都民防災教育センター」に設けられている「池袋防災館」を訪ね。インドネシアも地震の多い国であることから、地震の備えなど解説を受けた。体験フロアの起震装置で震度7の揺れを体験、机の下に逃げ込んだり、扉を開けたり、訓練のためと解ってはいても、実際の揺れの激しさに大騒ぎとなった。その後の解説は、神妙な面持ちで聞き入っていた。

「塾」でお勉強
自国で教育に携わる来日青年たちは、日本の「塾」も大きな関心をもっている。本協会では、独自の教育方法で全国展開をして活躍の「くもん(公文教育研究会)」のご協力を得て、実際のテキストを使った解説、講義

を受ける企画を組んだ。「誉める、励ます」の方針を聞き、大きく領いていた。教科書のできるまで
東京書籍のご協力を得て、教科書作成までの様々な過程を解説していただいた。義務教育教科書の検定、審査など、初めての情報に一生懸命聞き入っていた。日本科学未来館
今回のスケジュールで、一番の好評を博したのが「東京書籍」を訪ね。教科書の出来るまでを解説していただいた。

文部科学省訪問
「日本の教育の現状」について、文部科学省寺脇研大臣官房広報調整官より直接お話を伺う。日本の教育制度、教育方針についてなど、来日青年たちが一番興味をもっていたこと、知り

たかったことの解説に質問も多くあった。基礎知識としての十分な講義となった。茶道体験
世田谷区にある茶席・会席料亭一宮庵にて茶道を体験。並べられた茶道具にも、お点前の作法にも興味津々でのぞき込んでいた姿が見られた。また初めての「お薄(抹茶)」に感想は様々。

互いの顔をのぞき込み苦笑いする青年や、これは好きだと感想を述べる青年など、茶道体験にわいた。震度7の揺れにビックリ！
東京池袋の「東京消防庁

池袋都民防災教育センター」に設けられている「池袋防災館」を訪ね。インドネシアも地震の多い国であることから、地震の備えなど解説を受けた。体験フロアの起震装置で震度7の揺れを体験、机の下に逃げ込んだり、扉を開けたり、訓練のためと解ってはいても、実際の揺れの激しさに大騒ぎとなった。その後の解説は、神妙な面持ちで聞き入っていた。

「塾」でお勉強
自国で教育に携わる来日青年たちは、日本の「塾」も大きな関心をもっている。本協会では、独自の教育方法で全国展開をして活躍の「くもん(公文教育研究会)」のご協力を得て、実際のテキストを使った解説、講義

を受ける企画を組んだ。「誉める、励ます」の方針を聞き、大きく領いていた。教科書のできるまで
東京書籍のご協力を得て、教科書作成までの様々な過程を解説していただいた。義務教育教科書の検定、審査など、初めての情報に一生懸命聞き入っていた。日本科学未来館
今回のスケジュールで、一番の好評を博したのが「東京書籍」を訪ね。教科書の出来るまでを解説していただいた。

一生の思い出 ―歌と笑顔の彼ら―
東京都新島村立若郷小学校教諭 寺内 崇
国際理解に興味がある、一緒に歌いました。彼らは特に「こんなにちがった国だ」という思いが、最終日には、

初日は、日本人も含めて知っている人が誰もいないという状態で緊張していましたが、緊張感をなくすために懸命に、積極的に話しかけるようにしました。
デイスカッションでは、両国の英語教育について議論を重ね、様々な知識を得ることができました。一番驚いたのは、インドネシアと日本の教育環境には全く違いますが、ある程度「児童生徒の英語能力をいかに高めていくか」ということが共通した課題だとわかりました。



文部科学省を訪問。「日本の教育」の詳しい解説に、熱心にメモを取りながら聞き入った



鳩山会館で昼食。歴史的建造物に一同感銘を受けて記念撮影



日本科学未来館は、大のお気に入りとなった。最新の科学技術の展示を食い入るように見学



日本の伝統文化の一つ「茶道」を体験。お点前の手元を見入り、抹茶に嬌声をあげる



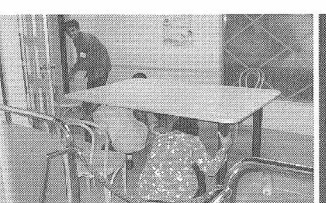
「公文教育研究会」の教育方法の解説に熱心に聞き入る青年たち。日本の塾制度に関心大



防災センターでの説明に熱心に聞き入る。両国とも地震国だけに、みな神妙な面持ち



「公文教育研究会」では子供たちが使っている問題集に実際に挑戦。思わず真剣になって



起震装置を使って震度7の揺れを体験。説明を聞きながら驚きと恐怖感で大騒ぎ



「東京書籍」を訪ね。教科書の出来るまでを解説していただいた

インドネシアの青年達には、ちょっとした空き時間にも自然と集まり、インドネシアの歌を歌って楽しんでいました。その姿は、とても印象的でした。私はインドネシアの歌を教わり、お返しに「こんなにちがった国だ」という思いが、最終日には、

「歌」をたくさん歌いまして、彼らとの出会いを通して、「笑顔」は「人に喜びを与える」ということを確信しました。私も彼らのような笑顔で、子供たちとかかわり続けたいと思います。貴重な機会を与えてくださった友愛関係者の方々、各方面の方々に心から感謝いたします。ありがとうございました。



軽井沢友愛山荘では、レクリエーションも楽しみ。パレーボールに興じる青年たち



日本、インドネシア両国の国情をふまえてのプレゼンテーション。質問が飛び交う



色とりどりの民族衣装も鮮やかにインドネシア青年からのお国文化紹介。女性から歓声が



軽井沢友愛山荘の縁に囲まれて、和やかに昼食会。若者らしい笑い声がひびく



インドネシア青年、日本青年、一つの輪になって日本文化の盆踊り。真の交流がなされた



各グループが設定したテーマでグループディスカッション。双方とも意見交換に熱が入る

軽井沢友愛山荘合宿セミナー「思い出」

「日本科学未来館」であった。東京江東区にあるこの施設は日本の科学の現状を解り易く解説、展示している。宇宙関連のみならず、多岐にわたる展示に、興味は尽きず、「もつと観ていたい」との声しきりだった。合宿セミナー(左写真参照)軽井沢友愛山荘を舞台に、七月二十七日、暑さも盛りの日本をあとに、元気に帰国の途に着いた。

に、日本青年との交流を含む三日間の合宿セミナーは、毎年好評を博している。(二面に掲載した参加者の感想を参照いただきたい。)

沢山の思い出とお土産を

携えて、七月二十七日、暑

さも盛りの日本をあとに、

元気に帰国の途に着いた。

日ソ共同宣言調印五〇周年記念事業 第三回勉強会 講師に鳩山由紀夫理事長登場

祖父鳩山一郎先生の築いたロシアとの絆 友愛理念の実践と本協会の拡充

七月十一日(火)午後六時十分より、鳩山会館において、鳩山由紀夫理事長を講師に迎え、第三回勉強会が開催された。

六時とはいえ、日中の強い暑さが残る日であったが、緑にかこまれた音羽の杜には涼やかな夕風が流

れ、参集の五十余名は静かな環境のなか鳩山由紀夫先生のお話に聞き入った。

この日、講師として登場した鳩山由紀夫先生は、いつもの赤いネクタイとは趣を変え、爽やかな梔子色のネクタイに藍色のスーツ姿、ご自身で用意された資料を配布されるなど、ロシアとの友好関係、日本友愛青年協会に対する意気込みと思いが感じられる。

「日ソ協会」の会長も務めておられる鳩山由紀夫先生は、まずその関係と立場から、今回の講演の概要を解説、続いて本題に入った。

講演のなかで、鳩山一郎先生が築いたロシアとの絆の大切さ、特に「日ソ共同宣言調印五〇周年記念事業」の重要性を話され「祖父が病身をおして訪ソを実行したこととは、同胞への思いと、国と国との友愛精神に他なりません。幸い同じ政治の世界に身をおく弟、邦夫もロシアとの友好関係を確実にしていくことに力を尽くし

ており、祖父の思いを、私たち兄弟も実現できた嬉しい限りです」と抱負を述べた。

最後に、十月に予定されている本協会の「日ソ共同宣言調印五〇周年記念事業・訪日事業」に触れ、現地モスクワでは、友好関係の催しが開かれること、自身もモスクワ行きを予定しており、多くの人に参加して欲しい旨を述べられた。

併せて、今年度から理事長に就任したことを受け、「一人一人はもとより、国と国の関係においても友愛精神が基本となります。私は政治の世界におられますが、友愛のない政治は、本当の政治とはいえないと思います。一人ひとりの生き

ることを大切にするとき、政治に一番必要なのは「友愛」です。そのためには、この協会の発展と継続に尽力いたします」と締めくくった。

講演のなかで、鳩山一郎先生が築いたロシアとの絆の大切さ、特に「日ソ共同宣言調印五〇周年記念事業」の重要性を話され「祖父が病身をおして訪ソを実行したこととは、同胞への思いと、国と国との友愛精神に他なりません。幸い同じ政治の世界に身をおく弟、邦夫もロシアとの友好関係を確実にしていくことに力を尽くし

ており、祖父の思いを、私たち兄弟も実現できた嬉しい限りです」と抱負を述べた。

最後に、十月に予定されている本協会の「日ソ共同宣言調印五〇周年記念事業・訪日事業」に触れ、現地モスクワでは、友好関係の催しが開かれること、自身もモスクワ行きを予定しており、多くの人に参加して欲しい旨を述べられた。

併せて、今年度から理事長に就任したことを受け、「一人一人はもとより、国と国の関係においても友愛精神が基本となります。私は政治の世界におられますが、友愛のない政治は、本当の政治とはいえないと思います。一人ひとりの生き

ることを大切にするとき、政治に一番必要なのは「友愛」です。そのためには、この協会の発展と継続に尽力いたします」と締めくくった。

講演のなかで、鳩山一郎先生が築いたロシアとの絆の大切さ、特に「日ソ共同宣言調印五〇周年記念事業」の重要性を話され「祖父が病身をおして訪ソを実行したこととは、同胞への思いと、国と国との友愛精神に他なりません。幸い同じ政治の世界に身をおく弟、邦夫もロシアとの友好関係を確実にしていくことに力を尽くし

ており、祖父の思いを、私たち兄弟も実現できた嬉しい限りです」と抱負を述べた。

最後に、十月に予定されている本協会の「日ソ共同宣言調印五〇周年記念事業・訪日事業」に触れ、現地モスクワでは、友好関係の催しが開かれること、自身もモスクワ行きを予定しており、多くの人に参加して欲しい旨を述べられた。

併せて、今年度から理事長に就任したことを受け、「一人一人はもとより、国と国の関係においても友愛精神が基本となります。私は政治の世界におられますが、友愛のない政治は、本当の政治とはいえないと思います。一人ひとりの生き

ることを大切にするとき、政治に一番必要なのは「友愛」です。そのためには、この協会の発展と継続に尽力いたします」と締めくくった。

講演のなかで、鳩山一郎先生が築いたロシアとの絆の大切さ、特に「日ソ共同宣言調印五〇周年記念事業」の重要性を話され「祖父が病身をおして訪ソを実行したこととは、同胞への思いと、国と国との友愛精神に他なりません。幸い同じ政治の世界に身をおく弟、邦夫もロシアとの友好関係を確実にしていくことに力を尽くし

ており、祖父の思いを、私たち兄弟も実現できた嬉しい限りです」と抱負を述べた。

最後に、十月に予定されている本協会の「日ソ共同宣言調印五〇周年記念事業・訪日事業」に触れ、現地モスクワでは、友好関係の催しが開かれること、自身もモスクワ行きを予定しており、多くの人に参加して欲しい旨を述べられた。

併せて、今年度から理事長に就任したことを受け、「一人一人はもとより、国と国の関係においても友愛精神が基本となります。私は政治の世界におられますが、友愛のない政治は、本当の政治とはいえないと思います。一人ひとりの生き

ることを大切にするとき、政治に一番必要なのは「友愛」です。そのためには、この協会の発展と継続に尽力いたします」と締めくくった。

講演のなかで、鳩山一郎先生が築いたロシアとの絆の大切さ、特に「日ソ共同宣言調印五〇周年記念事業」の重要性を話され「祖父が病身をおして訪ソを実行したこととは、同胞への思いと、国と国との友愛精神に他なりません。幸い同じ政治の世界に身をおく弟、邦夫もロシアとの友好関係を確実にしていくことに力を尽くし

ており、祖父の思いを、私たち兄弟も実現できた嬉しい限りです」と抱負を述べた。

最後に、十月に予定されている本協会の「日ソ共同宣言調印五〇周年記念事業・訪日事業」に触れ、現地モスクワでは、友好関係の催しが開かれること、自身もモスクワ行きを予定しており、多くの人に参加して欲しい旨を述べられた。

併せて、今年度から理事長に就任したことを受け、「一人一人はもとより、国と国の関係においても友愛精神が基本となります。私は政治の世界におられますが、友愛のない政治は、本当の政治とはいえないと思います。一人ひとりの生き

ることを大切にするとき、政治に一番必要なのは「友愛」です。そのためには、この協会の発展と継続に尽力いたします」と締めくくった。

講演のなかで、鳩山一郎先生が築いたロシアとの絆の大切さ、特に「日ソ共同宣言調印五〇周年記念事業」の重要性を話され「祖父が病身をおして訪ソを実行したこととは、同胞への思いと、国と国との友愛精神に他なりません。幸い同じ政治の世界に身をおく弟、邦夫もロシアとの友好関係を確実にしていくことに力を尽くし

ており、祖父の思いを、私たち兄弟も実現できた嬉しい限りです」と抱負を述べた。

最後に、十月に予定されている本協会の「日ソ共同宣言調印五〇周年記念事業・訪日事業」に触れ、現地モスクワでは、友好関係の催しが開かれること、自身もモスクワ行きを予定しており、多くの人に参加して欲しい旨を述べられた。

併せて、今年度から理事長に就任したことを受け、「一人一人はもとより、国と国の関係においても友愛精神が基本となります。私は政治の世界におられますが、友愛のない政治は、本当の政治とはいえないと思います。一人ひとりの生き

日ソ国交回復の今日的意義

法政大学教授 下斗米 伸夫



中国革命

中国革命は毛沢東がやったのだという説もありますが、本当はソ連軍がいて、日本軍の兵器だとか軍事的ノウハウ、あるいは日本兵の一部も八路軍側に就く、そんな状況があったわけです。

スターリンが思いもしなかった共産党の革命が中国で起きてしまった。そうすると、

当時はまだソ連の人口は億数千万で、中国側は五億人の国、合わせると大変な国になります。しかも、当時、アメリカは世界の経済の四割を握り、世界の金の七割を握って

いました。しかし、イギリスは没落してしまふ。フランスは、ドイツにやられて、ソ連・中国対アメリカ・イギリス。日本とドイツがへこんでいる。これが戦後のいわゆる冷戦構造でした。

ミコヤンの極秘訪問 鳩山総理の訪ソで非常に重要な役目を果たしている一人の人物が記憶だと思えますが、ミコヤンです。

中国で共産党が勝つと、一九四九年(昭和二十四年)、毛沢東のもとにミコヤンは行っており、

もう一つ、ミコヤンは、こ

こ鳩山邸を訪問する前に、北方領土を含む千島にも行っています。一九四五五年、千島列島の視察に行きました。

ミコヤンが動いて、ソ連共産党と中国共産党は話し合います。それは何か、簡単にいえば、世界のことは、アメリカ、イギリス、ヨーロッパのことはソ連が取り仕切

は中国共産党の毛沢東がコントロールする。そういう分担を決めたんですね。これは秘密協定、紳士協定です。したがって、文書は出てきており

まして、いろいろな外交文書が出てきますと、漠然とこういう構図がみえます。

こういふことのもので起きた朝鮮戦争が、我々の運命をさらに変えました。

その後どうするかで、アメリカとイギリスの間に意見の相違が生れました。すなわち、大日本帝国の土地を、台湾であれ、朝鮮半島であれ、千島であれ、だれに渡すのかというところで、アメリカとイギリスは決められなかった。台湾をどちらに帰属させるか、決められなかった。朝鮮半島も決められなかった。そして、その間に起きたのが朝鮮戦争です。

スターリンの現実主義、世

スターリンはなぜこの朝鮮戦争を認めたのか。これはヨーロッパの正統場になる。それまでは、どこかアジアの方でアメリカ軍を引きつける。要は朝鮮半島に引きつけて、そこからだたらと戦争をやっていた方が、戦争準備がやりやすい。悲しいかな、これがスターリンの現実主義、世界戦争は不可避だ、これがこの人の考え方であり、これがこの人は独立をしたわけでもない

す。当時の日本の指導者、ご承知のように鳩山総理のライバルでありました吉田総理が選

択した、あるいは選ばれるを得なかったのは、要するにアメリカとちゃんと話をし

て、国連軍にいわば基地を提供する。これが日本の独立と安保条約でした。一九五一年(昭和二十六年)九月に、吉田総理はサンフランシスコ平和条約に調印したのです。

アメリカとイギリスの間に、実は本当は温度差がござ

いました。ソ連のグルムイコという次官はそこにいました

が、しかし、署名はしませんでした。なぜソ連は署名しなかったのか。もしあのときソ連が署名していたら、領土問題が存在しなかった。当時、なぜソ連(スターリン)は署名しなかったかといえます

と、中国がまだ国連に加盟してない。それどころか、朝鮮半島で国連軍が青い旗を立てて我々と敵対している。したがって、これには乗れないと中国がソ連にいったからなのです。皆さん、今、アメリカ軍基地、あるいはアメリカ大使館にも国連旗ははためいておられます。まだ朝鮮戦争が終わってないから、アメリカ軍のマッカーサー司令は国連軍総司令でありましたが、だ

だその旗はおりてないわけですね。ですから形式的には国連軍はまだ存在している。休戦協定でしかないということ

であります。そういうわけで、吉田総理のやられたことというのは、日本は独立する、そのためにはアメリカと話をする。しか

たので、アメリカが占領している、アメリカのいうことを基本的に認める。例えば千島列島については、サンフランシスコ条約で、特に国後・択捉の日本もの九三

の方は歴史的日本のものとい

つつ、しかし、あの文書には

千島列島は放棄するというこ

日ノ共同宣言議定書調印五〇周年記念

『鳩山一郎・薫日記』を読む

川手正郎

第五回

一郎先生が大変な情熱家であったことは、薫夫人に宛てた熱烈なラブレターに見て取れる。

前回、「若き血の清く燃えて」鳩山一郎から薫への「ラブレター」(講談社刊)という書の中から、いくつかの逸話をご紹介したが、中でも薫夫人に英語を読めるようになるよう薦めていること、そしてそれに応え得る才の主であった薫夫人にも驚嘆を覚えたことを書いた。

先生と同様に熱烈なラブレターを認めておられたよう

だ。お二人は終身「愛」で結ばれていた素晴らしいご夫婦であった。そして同時に

お互いを理解し尊重する、いわば「同志」でもあったに違いない。

前出の書には、「互いに志を同じくする二人」「互いに教えたり教えられたりしたく思う」というくだりもあり、お二人の結びつきは、まさに「相互理解、相互尊重、相互扶助」の「友愛精神」そのものの実践でもあったと思える。

一郎先生が成し得た「日ソ共同宣言調印」は、国と国との結びつきの上で、一番難しい礎を作ったといえる。「外交」とひと口

に言ってしまうのはたやすく、「外交」こそが双方の国内政治事情、国際政治事情が、絡み合い、解くに解けない糸のように複雑化している難関である。

それを解きほぐす糸口を見つけ、実践するには、担当指揮官の「人」となり、發揮されることである。頭脳明晰ばかりではならず、柔軟な物分りの良さだけでなく事は成し得ない。芯となる確たる理念と、たぎる情熱があれば人の気持ちを揺り動かすことはできないのである。このことは、これからの日本を背負って立つすべての政治家に肝に銘じて欲しいと思う。

一郎先生は前出の書の中で「僕は未来、何するかかわらない。只自分の真理を

信じ、善と悪を最善の友に第一に語っては進む。もし世の中に入られなかつたら、最愛の友の手を取って清き自然を友とする」と書いている。

青年の思うがままの姿を、生涯を通じて貫かれたことを我々は知ることとなる。そして薫夫人という最愛の有能な同志を得て、一

郎先生の人となりはますます輝き、政治家としての実績に大いなる金字塔を打ちたてたのである。

本稿はここで筆を擱くが、十月実施される「友愛訪口団」に参加する事と立すすべての政治家に肝に銘じて欲しいと思う。

一郎先生は前出の書の中で「僕は未来、何するかかわらない。只自分の真理を

信じて、善と悪を最善の友に第一に語っては進む。もし世の中に入られなかつたら、最愛の友の手を取って清き自然を友とする」と書いている。

青年の思うがままの姿を、生涯を通じて貫かれたことを我々は知ることとなる。そして薫夫人という最愛の有能な同志を得て、一

郎先生の人となりはますます輝き、政治家としての実績に大いなる金字塔を打ちたてたのである。

本稿はここで筆を擱くが、十月実施される「友愛訪口団」に参加する事と立すすべての政治家に肝に銘じて欲しいと思う。

一郎先生は前出の書の中で「僕は未来、何するかかわらない。只自分の真理を

信じて、善と悪を最善の友に第一に語っては進む。もし世の中に入られなかつたら、最愛の友の手を取って清き自然を友とする」と書いている。

青年の思うがままの姿を、生涯を通じて貫かれたことを我々は知ることとなる。そして薫夫人という最愛の有能な同志を得て、一

郎先生の人となりはますます輝き、政治家としての実績に大いなる金字塔を打ちたてたのである。

本稿はここで筆を擱くが、十月実施される「友愛訪口団」に参加する事と立すすべての政治家に肝に銘じて欲しいと思う。

一郎先生は前出の書の中で「僕は未来、何するかかわらない。只自分の真理を

信じて、善と悪を最善の友に第一に語っては進む。もし世の中に入られなかつたら、最愛の友の手を取って清き自然を友とする」と書いている。

友愛 ほんだな

地球に恩返しする本。 鳩山邦夫のエコ・トーク

本書は、副題にもあるように鳩山邦夫氏が、環境を主題に行った対談をまとめたものである。対談は、ラジオ日本で

放送されたもので、鳩山邦夫氏自身もあがきで「ラジオ放送は、確実に思いを伝達できるという充実感を感じた」と述べているが、高い聴取率をおさめた人気番組であった。

本にまとめるにあたっては、量的な問題から制約せざるを得ない状況にあり、対談者全員が掲載されているわけではないが、それでも相当に迫力のある顔ぶれが並んでいる。

ここに掲載されている対談者を列挙することは避けるが、環境の専門家でもある第一人者としての活躍をしている方のみならず、写真家、女優、と変化に富んでいる。そのことが、環境を

放送されたもので、鳩山邦夫氏自身もあがきで「ラジオ放送は、確実に思いを伝達できるという充実感を感じた」と述べているが、高い聴取率をおさめた人気番組であった。

本にまとめるにあたっては、量的な問題から制約せざるを得ない状況にあり、対談者全員が掲載されているわけではないが、それでも相当に迫力のある顔ぶれが並んでいる。

ここに掲載されている対談者を列挙することは避けるが、環境の専門家でもある第一人者としての活躍をしている方のみならず、写真家、女優、と変化に富んでいる。そのことが、環境を

放送されたもので、鳩山邦夫氏自身もあがきで「ラジオ放送は、確実に思いを伝達できるという充実感を感じた」と述べているが、高い聴取率をおさめた人気番組であった。

主題としながらも専門分野の話として、興味深く語られていて読む者を惹きつける魅力となっている。

「レモン汁と同じほどの酸性雨が降っている」「南極で、二十年前には氷の原であったところが草原となり、ペンギンが草の上で寝転んでいる」「国の特別天然記念物に指定されていたサギ山(現埼玉県さいたま市)で、一万羽のサギが死滅してサギ山も消滅した」など、各人各様の体験、理念、解説など具体的な事例が次々と披露され、「環境に向き合うことの大切さ」が一段と強まる。そうした内容を引き出す

ことができるのも、鳩山邦夫氏の環境に対する強い思い、理念があるからだろう。現在衆議院議員となり、鳩山氏が「環境革命の同志」と呼んでいる馬渡龍治代議士、坂井学代議士は、かつて鳩山氏の秘書を務めていた。薫陶を受けた二人がそろって代議士となり、環境

についての問題提起、活動が続いていることは、鳩山邦夫氏の唱える「環境革命」が、着実に根をおろしている証拠といえるだろう。

一人が読み、次に伝え、また次に、大いに読者を広げた良書である。(エム)

ことが出来るのも、鳩山邦夫氏の環境に対する強い思い、理念があるからだろう。現在衆議院議員となり、鳩山氏が「環境革命の同志」と呼んでいる馬渡龍治代議士、坂井学代議士は、かつて鳩山氏の秘書を務めていた。薫陶を受けた二人がそろって代議士となり、環境

についての問題提起、活動が続いていることは、鳩山邦夫氏の唱える「環境革命」が、着実に根をおろしている証拠といえるだろう。

友愛婦人会だより

文京区内の福祉施設で奉仕活動 福祉活動をかげで支える力!

会福祉法人文京区立特別養護老人ホームくすのきの郷」で、その他高齢者住宅サービスセンター、在宅介護支援センターなどが併設されている、老人介護の総合福祉施設です。

入居者は、症状に程度の差はあるものの、認知症、身体的介護の必要な方など、特別なお世話を必要とする方がほとんどです。このため職員の見守りも大きく、婦人会の奉仕活動は大いに喜ばれています。

具体的な活動としては、洗濯物をたたんで整理するというのが主な内容です。一見簡単な作業に思えますが、百名を超える入居者の洗濯物となると、その量も想像を絶するものがあります。そもそもこの活動が始まったのは、くすのきの郷が開設したのと同時期。当時の婦人会幹事長西木まさ子さん、煙山静江さんが中心となり、関係各位から高く評価されています。

また、一面記事の通り、軽井沢友愛山荘には、鳩山一郎・薫子ご夫妻の銅像の移設もあり、これまでとはひと味違う山荘をお楽しみいただけます。(十月)

澄みきった青空と空気の軽井沢で、季節が変わり行く様子を味わう、ゆったりとしたひと時を過ごしてみたいいかがでしょうか?

友愛山荘は、お一人様からご家族、少人数グループと、何名様でもご利用いただけます。また、研修施設としても活用ください!皆様のお越しを心よりお待ちしております。



下着も靴下も何もかも膨大な量の洗濯物をたたみ名前を確認し、各人それぞれに振り分けて整理

軽井沢友愛山荘

蝉の声から赤トンボへ、木々が色づく季節が近づいてきました。

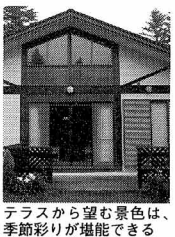
軽井沢友愛山荘では、お客様により快適にお過ごし頂けるようこの度大改造を行いました。

今回の改装は、「リラックスできる空間作り」を目指し、玄関ホールの拡張、洋室の窓の拡張・テラスの設置を実施いたしました。自慢の広い庭と、秋に近づくにつれ色づく木々や花々をお楽しみください!

また、一面記事の通り、軽井沢友愛山荘には、鳩山一郎・薫子ご夫妻の銅像の移設もあり、これまでとはひと味違う山荘をお楽しみいただけます。(十月)

澄みきった青空と空気の軽井沢で、季節が変わり行く様子を味わう、ゆったりとしたひと時を過ごしてみたいいかがでしょうか?

友愛山荘は、お一人様からご家族、少人数グループと、何名様でもご利用いただけます。また、研修施設としても活用ください!皆様のお越しを心よりお待ちしております。



テラスから望む景色は、季節彩りが堪能できる

宿泊施設
最大収容人数 四十名
和室・七室
洋室・二室

*山荘は二階建てで、エスカレータの設置はありません。食堂、浴室は一階にあります。一階のお部屋をご希望の方は申込みの際にお申し出ください。

詳しくは友愛事務局まで。
【03(5664)3188】